

平成 31 年 3 月 25 日開催

第 3 回岸和田市立小中学校等規模及び配置適正化審議会主な意見のとりまとめ

議題（1）事務局からの報告について

○教育大綱について、パブリックコメントを受けて変更点があれば次回までにお示しいただきたい。

議題（2）アンケート調査結果【中学校】について

議題（3）中学校の適正な学校規模について

○中学校は教科担任制であるため、学校運営上、学級数と教員配置数の関係は重要な問題になる。

○アンケートでは望ましい学級数の項目として 2～3 学級、4～6 学級と設定されているが、2 学級と 3 学級では学校運営上、状況が全然違うものだと考える。

○児童生徒数について、支援学級の人数もわかるように次回から資料作成をお願いしたい。

○校務分掌について、学校規模の違いにより教員一人あたりの負担が大きく変わってくるということも重要な問題である。

○小規模校の先生の負担が大きいということであれば、例えば各学校で作成しているテスト問題を統一して、教員の負担を軽減することはできないか。

○教員のゆとりといったことを教育大綱でも挙げているのなら、少人数学級化と職員加配を検討すべき。

○部活動でいきいきと中学校生活を送っている子どもたくさんいることを考えると、生徒数や学校規模が小さくなることで部活動に影響が出ることは 1 つの課題である。

○どこかの中学校がなくなるといった話が出ているみたいで問い合わせを受ける。根拠のない情報が流れないように留意してほしい。

○小規模校にもメリットがあり、中学校のクラスを一概に 4～6 クラスにするのはいかなものか。

○小規模校では、部活動の数が少なく選択の幅が狭いということが一つの課題であると考ええる。

○学力は、人数が少ないから高くなるということではなく、様々な環境の要因があると考ええる。

○同じ小学校から 2 つの中学校に分かれる校区があるが、小集団になるため肩身が狭い思いをするという声も聞いている。今後、子どもの人数が少なくなる上で通学距離も考慮しつつ誰もが安心して学校に通えるよう、考えていく余地があるのではないかと思います。